



soramado family にお届けする

sora の おと ♪

2019年2月号
VOL. 55

毎日の中のささいな楽しみを、
みなさんにお届けするお便りです

心がホッとあたたまるようなことなど
家のごことや暮らしのごことはもちろん、日々のこと、
それからソラマドのごとも♪綴っていきます

● 写真を通して建築を見る ●

先日、東京都写真美術館で開催していた、
展覧会「建築×写真 このみに在る光」に行ってきました。

写真創世記には、動くものを撮影することが難しかったことから、
建築が被写体とされることが多く、当時の建築をとらえた写真が多く残されています。
現存する最も古い写真も、1827年頃に撮影された窓から見える
建物の一角が写されたものだそうです。

建築写真は、機材そのものの進歩や写真の普及によって、写真表現も多様化し、
記録としての役割から作品として昇華してきた歴史があります。
この展示では、そうした建築写真の歴史と、建築写真家11人の写真を通して
建築写真の多様性に触れていました。

同じ建築を前にしても、それぞれ見出すテーマや、アングル、撮影する時間など、
それぞれ撮影者によって異なります。
そうした違いが、自分が気づかなかった建物の良さや価値観を提示してくれているようで、
それこそが建築写真の魅力でもあるのではないかな、と思いました。

例えば、給水塔を被写体とした作品集で有名な写真家ベッヒャー夫妻の
写真からは、各地で様々なデザインで建設された給水塔のそれぞれの
個性や美しさに気づかされます。

日本の建築写真の第一人者、渡辺義雄の伊勢神宮を撮影した作品
「内宮東宝殿」では、モノクロだからこそより強調される強い光を受けた
伊勢神宮が、神々しく、見る者の日本観をも決定してしまいうるほど、
エネルギーの感じる作品だと思います。

建築写真を通して多様な視点に触れ、どうしてその写真を気に入ったのか
考えてみるのも、自分が重要視している建物やデザインのポイントを知る
きっかけになるかもしれません。

● お家作りについて考えよう！ 中庭編 ●

今回の「お家作りについて考えてみよう」では、お客様からよく質問を頂く、
ソラマドの中庭について書こうと思います。
「ソラマドの家には必ず中庭がつくのですか？」という質問も受けるくらい、
ソラマドでは中庭を設けることが多くあります。
それも、6帖や8帖ほどのたっぷりとした空間にすることが多いのですが、
これは、プライバシーを守りつつ光をお家の中に沢山入れてあげる為の
工夫のひとつとなっています。

特に住宅密集地では、隣にも建物が建ち、窓を付けても光も入りにくく、
プライバシーを守るためにカーテンを一日中閉め切りにしないといけない
ということもあります。それを、内側に庭を設けてあげることで、
隣地から4メートルほどの距離がとれ、光の通り道を作ってあげることが
出来るのです。



ソラマド埼玉初のドローンでの撮影。
ロノ字型の平屋のお家を上空から撮影しました。
普段の生活では見ることのできない建物の姿を見ることが
できるのも写真の魅力ですよ。



施工例を撮影して下さる建築写真家さん。
外観撮影では、建物のかたちが忠実に伝わるように、
数メートルも伸びる脚立を使用して撮影を行います。



エントランスに入って目の前に広がる中庭。



外と繋がる空間を楽しめるのも
中庭の魅力の一つ。

● スタッフのつぶやき ●



今月の担当: 鈴木

こんにちは。鈴木です。
もう3月ですね。おかげさまで毎日楽しく忙しく仕事させていただいているので、時の流れがすごく早く感じます。
先月のバスツアーの話ですが、大盛況で2日間でなんと24組もご参加いただきました。参加者は当然現在家づくり
をご検討中の方ばかりなのですが、中には既にsoramadoに住んでいるOBさまや、現在プラン打ち合わせ中の方も
ご参加いただき、それぞれ思い思いにご見学なされていました。バスツアーは実際のsoramado生活に直接触れら
れる良い機会です。これからもさまざまなツアーを企画中ですので、どなたでもお気軽に遊びに来てください！
…あ！OBの皆さま。これからも「我が家自慢」よろしくお願ひいたします！（笑）